

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

見せかけでなく真剣な感染対策を

「感染情報は隠ぺい」 「検温さえ行わない」

突然「運転台消毒を行え」と指示

5月5日、CTS津田沼事業所で「運転士が発熱した」という理由で急遽列車の運転台消毒が指示されました。指示はJR構内助役からCTS清掃現場に直接、CTS管理者も知らないところで行われました。現場から「訓練も教育も受けておらず防護服もない」「JR助役からCTS現場への直接指示は偽装請負」と抗議され、JR助役は誤りを認めて謝罪。消毒はJR助役によって行われました。

JRにこそ感染対策の責任がある

こんな事になるのはJRが感染対策をまともに行わず無責任に放置しているからです。

2020/4/28 CTS団交の確認事項

- コロナ感染疑いに伴う列車の消毒作業が行われたことについて、CTS本社は**専門的な消毒作業のノウハウ、指導体制はない**と回答。
- 運転台の消毒**は、機器取扱方法などが不明のため、**JRから依頼があってもCTSでは行わない**。

CTSは教育訓練

や防護服、感染症の専門家、指導体制などありません。現場だけが振り回され、JR助役まで混乱しています。JRはそれを承知で放置し続けているのです。そもそもJRは、いまだに乗客と接する乗務員や駅員の検

温さえ行っていない。驚くべきことです。社会的には「発熱等社員の体調管理の徹底」をうたいながら、団交では「検温を行う考えはない」とまで回答しています。行われるのは、「見せかけ」だけの「感染対策」です。

そのかげで職場の感染は拡大しています。「運輸区の感染拡大で行路持換えが行われた」という情報も出ています。しかし、現場にも社会的にも徹底して隠ぺいされています。

乗務員が感染していれば、便乗や詰所、泊勤務時の乗務員休養室などで接触の可能性があります。接触の可能性のある者の検査を行うのは最低限必要な対応です。感染の情報は明らかにしないなど絶対に許されません。

職場に闘う労働組合を

JRがここまで感染対策をないがしろにするのは要員削減のためです。体調管理や感染対策を徹底すれば、予備要員の確保が必要になります。要員削減・コスト削減のためだけに、意図的に検温にも感染対策にも責任を持たず放置しているのです。現場労働者の命と健康を踏みにじるにも程があります。

この会社の現実を変える力は、職場に闘う労働組合を取り戻すことです。「教育訓練もなく消毒作業を強制するな」「JRは感染対策に責任を持て」の声を職場からあげよう。